

## まえがき

コンクリートに関係する仕事に就く者にとって、阪神大震災は大きな教訓を残しました。

更に、中越地震からは、当時新潟県に在住していた筆者は木造住宅の耐震問題を切実に感じました。あらためて自宅（東京）の木造二階建て住宅を見ると、築35年で耐震基準が厳しくなる前の建築であり、壁が少なく南東面は全て開放面です。職業柄、自分で簡単に耐震チェックをしてみると、どうみても阪神大震災クラスの地震が来ればアウトの状況でした。

そこで、数ヶ所の業者に正式な耐震診断と耐震リフォームの見積もりをお願いし、結論としては壁と筋交いを増し、布基礎コンクリートと柱の接合補強等を行うこととしました。

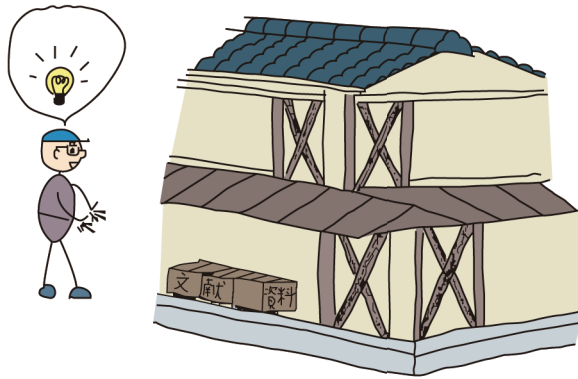
家族が住みながらのリフォーム工事とし、部屋の改装も含めた工事を開始しましたが、家の窓や壁を全てはずして筋交いを入れるため、人間は一部屋だけに居住して工事の進捗に合わせて移転し、各部屋の荷物もその都度移動させるという、まるで難民生活の二ヶ月間となりました。

押入れの荷物も全て出し、出来るだけ捨てるようにしましたが、ダンボール箱3個だけは捨てるにしのびなく、カミさんの不服そうな顔を無視して捨てずに残しました。

箱の中身は、入社以来の海外出張の資料と、昔、気になっていた文献のコピーや関係図書です。筆者が約40年にわたり、セメント・コンクリート・混和材（剤）の開発に携わってきたことから、古くからのセメント・コンクリート材料に関する資料です。

ようやく耐震リフォームが終了し、ホッとした休日にダンボール箱の中を再度見てみました。

なつかしい新入社員のころ刊行された W. チェルニン著の「建設技術者のためのセメント・コンクリート化学」を再度、一気に読みました。



40年近く前に書かれたものですが、セメント水和物ゲルの強度発現、セメントの硬化収縮、乾燥収縮等、現在も研究が続いている事項についても非常に分かり易く記載されており、改めてすばらしい著書であると感じ入りました。

箱の中には、その他にも懐かしく有意義な資料が多く、現在のセメント・コンクリート技術に繋がっているものも多数ありました。

そこで、これら昔からの重要技術と最近の技術を適度に織り交ぜ、つたない知識ではありますが、「仕事がひろがるコンクリートの話」として順次紹介させていただきます。

2008年9月

著者